

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス かるみあ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 10日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2026年 1月 10日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「自立」に向けた支援指導 個々の特性を十分に理解し、自立に向けた計画 その日の状況や状態を受け、臨機応変に対応する支援指導	18歳を迎えた時に困らないように、その先を見据えた支援指導を行っている。 特性を考慮し、配慮しながらも、保護者や本人が目指す未来に向けて今何をしていくのかを繰り返し話しながら、スモールステップの計画を作り、「できない」と言われたものを「できた」に変えていくことを行っている	保護者の方と学校との連携を図るために、しっかりと支援者会議が行えるように相談支援専門さんと計画をしている 配慮が行き過ぎないように、指導が行き過ぎないように偏りを防ぐために、児発管が送迎に入るなどし、利用者本人と接したり、保護者や学校などとも連携を図る
2	学習支援の充実	読み書き・語彙力・読解力・音読力などの能力向上だけでなく、指導員とのやり取りを通し、質問する力や伝える力を習得できるような会話をする 語彙力が課題になっている子には絵日記を毎日の習慣にすることで、会話の質が上がり、同時に文章力、漢字、日常、本人の価値観が理解しやすくなり、成長が多くみることができた	問題を解くだけの学習ではなく、ボードゲームやツールを使いながら、躰を早期に解決できるようにサポートする また、保護者に共有し、保護者からも共有してもらうことで連携を図る
3	学校や相談支援専門員との連携	実際に支援を見ていただいた相談支援専門員さんから、評価を頂き、良好な関係を築いている。また、学校の送迎も単なる送迎とならないように情報共有をしたり、コミュニケーションを図り、時には保護者の方との間に入りながら、関係を築いている。(あくまでも保護者の方が主)	モニタリングや業務連絡以外にも日頃から相談や連絡しながら関係を作ることは今後も継続していきたい。 学校での支援者会議もできれば全学校で行えるようにしていきたいと考えている

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信が少ない	送迎時に指導員とコミュニケーションが取れ、その都度話していることで「できている」と感じていたのも要因のひとつ。 SNSなどの活用が弱く、個人情報などもあるため、タイムリーに配信できずに発信することなく終えている	活動報告などを定期的に書面にて報告する SNSの活用を検討する
2	地域活動や外部と関わるような活動が少なめである	土日祝が休業日のため、交流する期間が春休み・夏休み・冬休みと限定される。今年度においては冬休みの開業日も少なく、夏休みは気温のこともあり、外に出る機会を抑えたため、少なくなっている	地域のイベントがある時などの臨時営業 ※指導員の確保、利用者のニーズを確認 外部のコミュニティなどの情報収集
3	保護者さん同士の交流の場がない	数年前の親子イベント案内を数ヶ月続けるも、反応がなく、保護者の方が求めていないと感じていた 環境を考えると土日祝での開催となると感じている。保護者の方のお休み、親子の時間を考えるとどうなのかを感じていた	まずは保護者の方のニーズを確認し、そのうえで判断する 土日祝開催の場合は臨時営業とする必要も出てくるので、その場合の指導員の確保なども合わせて確認する必要がある